



いわてまち 社協だより

79号
2015.3月

ジャパンゴルフツアー選手会様より福祉車両を寄贈していただきました。



編集と発行

社会福祉法人 岩手町社会福祉協議会

岩手町大字五日市10-51-1

TEL.0195-62-3570 FAX.0195-62-1599

●Eメール iwaketow@eins.rnac.ne.jp

この広報誌は、共同募金配分金の一部をあてて発行しています。

目次

- 第22回岩手町福祉作文コンクール作品紹介…………… 2～9
- 赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金のご報告…………… 10～11
- 町の福祉・寄付のご報告…………… 12

第22回岩手町福祉作文コンクールを実施

育てよう 思いやりの心 助け合いの心 福祉の心

社会福祉協議会では町内の小・中・高校生を対象に、高齢者や障がい者にやさしいまちづくりを目指し、地域福祉への理解と関心を高めることを目的として、岩手町福祉作文コンクールを毎年実施しています。22回目を迎えた今年度も、学校や家庭、福祉施設での体験や、高齢者・障がい者との交流によって育まれた思いやりの心・助け合いの気持ちなど、福祉の心にあふれたたくさんの作品が寄せられました。

第22回岩手町福祉作文コンクール 入選作品

《小学校 低学年の部》

(応募総数 18 点)

入選	学校名	学年	氏名	作品名
最優秀賞	一方井小学校	1	田村海未	たむら みみ ひいおばあちゃん
優秀賞	北山形小学校	1	大村祈乃	おおむら いの ありがとう ばっちゃん
佳作	北山形小学校	1	中村翔真	なかむら しょうま てをかしてあげるよ
佳作	水堀小学校	1	中居亜海	なかい あみ ひいおばあちゃんとけいろう会
佳作	浮島小学校	2	三浦煌河	みうら こうが おかあさんのおまもり

《小学校 中学年の部》

(応募総数 22 点)

入選	学校名	学年	氏名	作品名
最優秀賞	北山形小学校	3	柳本暖翔	やなぎもと はると みんなのえ顔を見るために
優秀賞	水堀小学校	4	森美香	もり みか あいさつの力
佳作	沼宮内小学校	4	高橋乃生	たかはし のい 福祉の心をもって
佳作	川口小学校	4	村山那琉	むらやま なる ケアホームを訪問して
佳作	浮島小学校	4	松本由綺	まつもと ゆき わたしのパンで元気にしたい
佳作	沼宮内小学校	4	大宮月	おおみや るな だれもがくらしやすい社会に
佳作	岩瀬張小学校	4	岩崎拓	いわさき たく お年よりの身になって
佳作	久保小学校	4	久保深悠	くぼ みゆう 私のひいおばあさん

《小学校 高学年の部》

(応募総数 25 点)

入選	学校名	学年	氏名	作品名
最優秀賞	沼宮内小学校	5	中居幸駿	なかい ゆきとし ぼくの家のおいさつ
優秀賞	沼宮内小学校	5	田沼夢叶	たぬま ゆめか 理解すること、分かり合うこと
佳作	川口小学校	5	佐藤千尋	さとう ちひろ 「川口パトロール」の人たちの心と笑顔
佳作	北山形小学校	6	柳本幸輝	やなぎもと こうき 不自由になった時の大変さ
佳作	一方井小学校	5	千葉遥音	ちば はると 世代をこえて支えたい
佳作	川口小学校	6	田茂内健留	たもない たける 祖母の入院
佳作	久保小学校	6	横田有香	よこた ゆうか 敬老会に参加して
佳作	一方井小学校	6	遠藤琴美	えんどう ことみ 民謡を習って学んだこと
佳作	浮島小学校	6	松本奈々	まつもと なな 思いやりの大切さ

《中学校の部》

(応募総数 20 点)

入選	学校名	学年	氏名	作品名
最優秀賞	一方井中学校	2	三浦恵美佳	みうら えみか 音楽から始まって—私の夢—
優秀賞	川口中学校	1	村山萌	むらやま もえ 命にふれて
佳作	沼宮内中学校	1	岩井真子	いわい まこ 私にできること
佳作	沼宮内中学校	2	山本颯馬	やまもと そうま 高齢者の方々が住みやすい町づくり
佳作	東部中学校	2	岩崎右京	いわさき うきょう 地域とこれからの自分

《高校の部》

(応募総数 6 点)

入選	学校名	学年	氏名	作品名
最優秀賞	沼宮内高等学校	2	村山紗月	むらやま さつき 改めて決意したこと
優秀賞	沼宮内高等学校	2	小島未奈	こじま みな これまでの活動を通して感じたこと
佳作	沼宮内高等学校	2	武田亜美	たけだ あみ 介護と向き合う
佳作	沼宮内高等学校	2	澤口茜	さわぐち あかね 私の目指す看護師像

作品紹介

小学校 低学年の部

最優秀賞

ひょうびあちゃん

一方井小学校一年 たむら みみ

わたしには、八十四さいのひいおばあちゃんがいます。わたしがうまれたころは、とてもかわいがってくれたそうです。

でも、おばあちゃんは、わたしが一さいのころからにんちしようになりはじめました。ひいおばあちゃんのびようきは、めずらしいそうです。にこにこしていてやさしく、みんなににんきもののおばあちゃん。そのおばあちゃんが、べつなひとのようになってしまうのです。そして、びようきになってからは、いつもおこっていて、おおごえでさけんでかぞくをきずつけるようなことをいうこともあります。

ときどき、やさしいおばあちゃん

にもどることがあります。そのときは、むかしみたいににこにこします。おばあちゃんがわらうと、うれしくなって、みんながにこにこになります。川ぐちでみたおまつりのことをたのしそうにはなしてくれます。かるたであそぶこともあります。かるたでは、はじめは、わたしがのおくとるけど、だんだんおばあちゃんがかってきます。おばあちゃんは、かるたがうまいです。

でも、そんなににこにこなおばあちゃんになるのは、すこしのあいだけです。びようきにならないければ、やさしいおばあちゃんだったとおもうとかなしくなります。

おばあちゃんは、ごはんをひとりでたべれないので、わたしもつだいます。おちやをかたづけてあげることもあります。わたしのたいせつなかぞくなので、みんなでちからをあわせておばあちゃんをささえています。きょねん、おじいちゃんがしんでかなしかったので、おばあちゃんには、ながいきしてほしいです。

小学校 中学年の部

最優秀賞

みんなのえ顔を 見るために

北山形小学校三年

やなぎ本 はると

わたしがおおきくなったら、おばあちゃんのおせわをもっとしてあげたいです。わたしのゆめは、おじいさんになることです。おじいさんになって、おばあちゃんのびようきをなおしてあげたいです。いつかたのおじいちゃんやおばあちゃんにもげんきでいてほしいです。

元気に畑に出かけていくおじいちゃんは、もうどこにもいません。トラクターからおりる時に、すべって落ち、こしをいためてしまったのです。トラクターを運転するおじい

作品紹介

ちゃんは、とてもかっこよかったです。ぼくも早く大きくなって運転したいと思っていました。それなのに、このけがから、生活がすっかりかわってしまいました。

あれからおじいちゃんは、車いすの生活になりました。でも、家の中で車いすに乗っていれば、自由に動けて楽だと思っていました。ところが、キャップハンディ体けんの後、ぼくの考えは、すっかりかわりました。車いすを運転するのは、かんたんなことではありませんでした。少しのだんさでも、乗りこえるには、うでの力がたくさんいります。それに、ほんの少しのさか道でも、前に進むことができませんでした。体育館のような広い場所でも車いすのそうさは、とてもむずかしく思うように進めませんでした。

社会ふくしきょうぎ会の方は、車いすをおす時には、乗っている人がこわくないように、やさしくだんさを乗りこえることや、声をかけて安心させて動かすことを教えてくれました。

した。

キャップハンディ体けんをしながら、ぼくは、おじいちゃんのことを思い出していました。おじいちゃんも、何も言わなかったけど、こんな大へんな思いをしていたんだあとではじめて分かりました。そして、ぼくは何もしてあげていなかったことに気づきました。車いすは、べんりだと思っていました。ぼくは、早く家に帰って、おじいちゃんを助けてあげたくなりました。そして、ぼくのまわりには、ほかにぼくの助けをひつようとしていた人がいたんじゃないのかなあとドキッとしました。

あい手のことをよく分かり、その人の気持ちになって考えることは、むずかしいことです。聞くことで相手をきずつけてしまうこともあります。だから、まず、これからは、声をかけることをはじめてみようと思います。

「手つだいいますか。」

「大じょうぶですか。」

と。みんながあい手の気持ちになって、助け合えば、きっと、みんながしあわせになると思います。岩手町の人もおじいちゃんも、え顔になると思います。え顔が広がるようにぼくもがんばります

小学校 高学年の部

最優秀賞

ぼくの家のおひつ

沼宮内小学校五年 中居 幸駿

「おはよう。」「はい、おはよう。」

ぼくの家的一天は、朝は家族のあいさつから始まります。「おはよう」と何気なくするあいさつですが、僕の家では三通り伝え方があります。

一つ目は、おたがい顔を見て口元を見せての「おはよう」です。二つ目は、体の一部をポンポンとたたいてから、顔を見て「おはよう」三つ目は、すわっている床をどんとたた

作品紹介

たき、振動で気付かせてから、顔を見て「おはよう」です。

なぜ、一つの言葉「おはよう」に、三つの伝え方をしなければいけないのか、誰でも不思議に思うかもしれない。でも、ぼくの家では、当たり前のことです。ちがうことと言え、弟はちよつと格好いい機械を耳につけて音を聞いているということかもしれません。ぼくの弟は、難聴だと言われています。

ぼくは、時々お母さんと一緒に、弟がいる聴覚支援学校の行事を見に行くことがあります。ビックリしたことがあります。それは、僕たちと同じように授業をしていることです。文化祭では大きな声を出してげきをしたり、合奏をしたりしています。耳が聞こえにくいと言うことは、それだけでも大変なのに、とても上手に演奏をしていました。きつとたくさん努力をして、みんなで覚えたにちがいません。

今年、初めて盛岡さんさおどり「手話さんの会」に、弟と参加し

ました。練習は、たいこの音を聞きながら、おどりをひたすら練習をして、体で覚えていくというものです。難聴の友達やお母さんたちは、とても明るくて前向きに頑張っている人たちばかりです。そして、みんなはどんないろいろなことにチャレンジをしていました。ぼくよりも、たくさんのことに挑戦をして頑張っているような気がしました。

不自由ってなんだろう。弟は耳が聞こえなくて、おたがいの話を通じてにくくて不自由なはずだけれども、ぼくよりも頑張っている姿をたくさん見ています。みんなと同じです。ただ、ちよつとだけ弟のために工夫をしてほしいことがあります。顔を見て大きな声ではっきりと口を動かしながら話をしてほしいということです。たったこれだけで、弟はみんなと話ができます。そして、おたがいの気持ちを通じて楽しくなりま。す。ちよつぴりだけ気を付けてもらえたら、弟は、ぼくたちと同じなのです。ぼくの大切なたった一人の弟

です。これからだって、ぼくは普通に弟と一緒に助け合いながら、楽しい時間をすごしていこうと思っています。

弟の耳が聞こえにくいということは、毎日の生活の中で考えることはありません。ぼくと何もかも同じです。大切な命を守ることは誰もが同じなんだと思います。だから、ぼくは毎日、「おはよう」をきちんと伝えたいのです。

中学校の部

最優秀賞

音楽から始まる —私の夢—

一方井中学校二年 三浦 恵美佳

人は、どんなときに幸せだと感じるのでしょうか。

私は、音楽に浸っているときに、

作品紹介

幸せを感じます。

「音楽」にも、いろいろな種類があります。私は、クラシックやジャズ、ロック、民族音楽などを、すぐに思い浮かべます。

しかし、「音楽」と言えば、流行歌のポップスを思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。

ポップスは、メロディーだけでなく歌詞がついていることが多いです。歌詞にも注目して聴くと、恋についてかいた歌があったり、人生についてかいた歌があったりと、いろいろな内容があります。

歌詞に気をつけるようになってくると、作詞者が伝えたかったことや、思いが、その曲に詰まっているのだと、分かるようになります。

作詞と作曲が同じ人の場合は、他の人に伝えるメッセージにブレがなく、伝わる思いも強く感じます。

作詞と作曲が別の人の場合は、伝える意味を確かめ合って作るので、曲に広がりや深まりが出てくると思っています。

こうしてできた「音楽」をきくことで、私たちは、生きる力をもらっていると思います。普段は勿論ですが、悲しいとき、元気が出ないときこそ音楽を聴きたくなりませんか。そして、音楽をきいているうちに、憂うつな気持ちが少し和らいだり、元気がでたりした経験が、きっとあると思います。

私は、いつも、音楽に元気をもらいます。音楽は、人々に力や元気、勇気をくれる、すばらしいものだと思っています。

音楽は、今、医療でも力を発揮すると言われ、認められています。

例えば、認知症の方が音楽を聞いたり、楽器で演奏したりすると、病気が進む度合いを遅らせることができるそうです。

また、様々な病気の後遺症に悩む人々にとって、音楽はストレス解消になります。音楽を生活にうまく取り入れると、病気の症状が長く続いてイライラが募っている人は、感情コントロールがうまくなるそうです。

す。話すことに困難があった人の中には、言葉が出やすくなった例もあるそうです。

このように、音楽で心や体をほぐすことを専門的に行う人を「音楽療法士」といいます。

私は、将来、音楽療法士になりたいと思っています。

なかでも、子供音楽療育士になりたいと思っています。心身に何らかの障害を持つ子供と音楽を通して触れ合い、発達の援助を行う仕事です。現在は特別な病気や施設で仕事の需要があります。

私は、この仕事を知ったとき、とてもうれしくなりました。なぜなら、自分が好きな音楽を仕事にできるからです。そして、人のためになるからです。五歳から弾いてるピアノも生かすことができる、音楽が好きな、とても私らしい仕事だと思いました。

音楽は、昔から、励ましたり、和ませたり、人の心に働きかける特別な力を持つものでした。これから研究が進めば、医療だけでなく、もっ

作品紹介

と、音楽が多方面で注目されるかもしれません。

私の夢の「子供音楽療育士」は、現在あまり有名な仕事ではありません。そもそも音楽療法士は、珍しい仕事です。

これらの仕事は、今後、社会でどれほど必要とされるのか、資格を取って働くことがどれほど難しいのか、悩みはあります。しかし、私は、せっかく出会えた「音楽療法士」を目指して、頑張ります。心と体をきたえ、勉強もして、夢をかなえたいです。

高校の部

最優秀賞

改めて決意したけど

沼宮内高等学校二年 村山 紗月

今年の夏、私は盛岡市玉山区にある洪民中央病院で、インターンシッ

プをさせていただきました。そこで体験は、福祉について私に沢山のことを学ばせてくれました。

人のお世話をするのが好きな私の夢は、介護福祉士になることです。

今回のインターンシップもお年寄りとは触れ合う時間が多く、楽しみにしていました。ところが初日を迎えあまりの緊張のために患者さんとのコミュニケーションをどのようにとれば良いのかがわからなくなりました。言葉をかけることができず、隣りに居るだけで終わってしまいました。相手によって変えなければならぬ「話すこと」が、こんなにも気疲れするものとは思いませんでした。見ていることしかできず、何も行動に移すことができないままに終わった一日でした。

初日の出来事がありにも大きなショックとして心に残り、二日目の朝は行く前からあまり気が進みませんでした。しかし、そのような気持ちには、すぐに打ち消されました。初日は何もできなかった私を、患者さ

ん達は覚えていて、声をかけてくださったのです。それは、本当に嬉しい出来事でした。「悩んでいても駄目なだけ。積極的に行動しなければならぬ。」というのを私に気付かせてくれました。この日も患者さんのお世話をさせていただきましたが、私はある程度どうすれば良いのかを心得て、自然と会話も弾み時間を忘れてしまうほど、楽しく過ごすことができました。

患者さんの中にはお年寄りの方が多く、お話を聞いて多かったのは、人生の先輩であるからなのか、「今を楽しく生きなさい。」ということでした。そして、「今は楽しいことばかりだが、これから大変なことも起こり、苦労もしていくよ。」とも話してくださりました。他にも家族のこと、戦争のこと、人生のことなど、様々なことを話してくれました。ただ聞いて欲しいというだけではなく、自分がした間違いを私にはして欲しくないという気遣いが伝わり、胸が温くなりました。

作品紹介

私がお世話になった病院には話せる方だけではなく、言葉を話すのが

不自由な方や、言葉の聞き取りにく

い方もいらっしゃいました。私は、

その中の一人であるお年寄りの患者さんが、一生懸命何かを訴えている

のにもかかわらず、何を言っているのか分からずに、ただうなずいてあげることしかできませんでした。私

はこのままにしたいくないと心に熱いものを感じたので、反応が薄くてもその方に頻繁に話しかけました。話

しかけながらその方の細くやつれた手を見ていると、その手を握らずにはいられなくなりました。すると、

患者さんも私の手を握り返してくれた気がしました。そして、目で何かを訴えていることに気付きました。

私はわずかに動くその方の唇の動きを見て、何とか内容を聞き取ることができました。その時に、患者さん

がほんの少しでしたが笑顔を見せてくれたように感じました。その時に私は、「これだ。」と思いました。相

手の笑顔を見られるだけで十分な

だと。この笑顔を見るためなら何でも頑張れると。

私はインターンシップの体験を通

して多くのことを学ぶことができた。それまでの私は、施設や病院などに入っているお年寄りは、人の

手を借りて生活することで自由もなくなり、家族とも一緒に暮らせず、可哀想だと思っていました。しかし、

インターンシップで出会ったお年寄りの方々は、一人ひとりが自分の人生を一生懸命歩んできた人達でした。これからもいろいろな出会いを

楽しみにしている方々でした。決して可哀想な人でも弱い人でもなかったのです。だからこそ、相手を尊重

し、対等な立場に立ち、相手の心を理解することが大切だと思うようになりました。また、お年寄りは常に

相手の表情を見ています。私が笑顔でいるとその人も笑ってくれます。

私が面白い表情だとその人も良い顔をしてくれません。私の周りの人達は私のそのままだ映してくれる

「鏡」であり、私は常にこのことを

念頭に置いて人と接していこうと思いました。

また、今回のインターンシップでは、お年寄りの方々との交流を通し、

改めて介護福祉士になりたいと強く再確認できたと同時に、人と人との心の触れ合いがないところに、「介護」は存在しないと実感できました。

私の周りにもっともっと笑顔を増やすため、これから専門的な知識や技術を身につけて、介護福祉士への道を歩んでいきたいと思えます。

総評 「福祉の心」が確実に育っています

「福祉作文」を書くことは、福祉についてよく見詰め、よく考え、そして、まとめることを通して、福祉の心を自ら深めることにつながっています。今年の福祉作文コンクール応募作品を読んで、そのことを再確認できました。また、十二月四日開催された第三十四回岩手町社会福祉大会において、最優秀賞を受賞した五名の児童生徒の皆さんが作文を朗読しました。筆者の肉声を通して作文に触れることができ、審査で原稿を読んだ時とはまた違う感動を覚えました。いい子供たちが育っています。岩手町の児童生徒に福祉の心を育む機会を提供くださっているご家族の皆様、地域の方々、指導くださった学校の先生方、社会福祉協議会等の関係機関の皆様方に心より感謝申し上げます。

健やかに育っている児童生徒の代表的な五作品に対して、賞賛と期待感を持って、率直な感想を以下に記します。

●『ひいおばあちゃん』一方井小学校一年・田村海未さん。

読み手をぐいぐい引き込む筆力があります。認知症の「ひいおばあちゃん」がわらうと、うれしくなって、みんながにこにこになります。そんな家族みんなで温かくいたわる姿をしっかりと見ているから、「お医者さんになって、病気を治してあげたい」と海未さんの夢がふくらんでいます。

●『みんなのえ顔を見るために』北山形小学校三年・柳本暖翔さん。書き出しが巧みです。かつこいおいおじいちゃんが事故で車いす生活になったこととキャップハンディ体験で学んだことを結びつけた構成が説得力を生んでいます。だから、「みんなが相手の気持ちになって助け合えば、きっと、みんなが幸せになると思います。」が読み手に響いてきます。

●『ぼくの家のあいさつ』沼宮内小学校五年・中居幸駿さん。

「不自由なはずだけれども、ぼくよりも頑張っている」弟は「みんなと同じ」。「ただ、ちょっとだけ弟のために工夫をしてほしい」「ちよっぴりだけ気を付けてもらえたら、弟はぼくたちと同じ」「ぼくと何もかも同じ」。弟を想う幸駿さんの愛に感動し、ほんの少しの気遣いを当たり前にできる社会でありたいという願いにも強く共感させられます。

●『音楽から始まってー私の夢ー』一方井中学校二年・三浦恵美佳さん。

論理的に文章を書くことを通して、書き手の思いを整理し鮮明にしています。だから、読み手は、三浦さんの前向きな清新さに応援したくなってきました。夢や希望を鮮明に抱くほど、人は強くなり、多少の困難では挫けません。

●『改めて決意したこと』沼宮内高等学校二年・村山紗月さん。

インタビューシップを通して多くの学びができたのは、村山さんの職場体験に臨む姿勢が前向きだったからでしょう。「周りの人達は私のそのままと映してくれる（鏡）周りにもっともっと笑顔を増やせるかその成否は自分次第。「人と人との心の触れ合いがないところに（介護）は存在しない」の（介護）を（人間的な生活）と置き換えても通用します。村山さんに限らず沼宮内高校からの応募作品すべて、誠実で丁寧な字体で記されていたことにも、感心しました。

〈審査委員長〉 岩手町教育委員会教育長 平澤 勝郎



赤い羽根共同募金

みなさまからたくさんの募金にご協力を頂きました。

◆戸別募金（一般募金・歳末募金）

（単位：円）

地 区	世帯数	一般募金	歳末募金	地 区	世帯数	一般募金	歳末募金	地 区	世帯数	一般募金	歳末募金
前ヶ沢	16	14,400	3,200	田中・栄小路	58	52,200	11,600	下黒内	47	42,300	9,400
吉谷地	6	5,400	1,200	上大町	37	33,300	7,400	葉木田	46	41,400	9,200
御堂新田	15	13,500	3,000	下大町	76	68,400	15,200	今松	54	48,600	10,800
御堂	37	33,300	7,400	上野口町	50	45,000	10,000	上鳴沢	54	48,600	10,800
水堀	33	29,700	6,600	下野口町	37	33,300	7,400	下鳴沢	36	32,400	7,200
小山沢	13	11,700	2,600	上愛宕下	53	47,000	10,400	上浮島	22	19,800	4,400
朽木林	20	18,000	4,000	新愛宕下	83	74,700	16,600	下浮島	80	72,000	16,000
北上	6	5,400	1,200	下愛宕下	120	108,000	24,000	岩崎	31	27,900	6,200
上横沢	24	21,600	4,800	江刈内	55	49,500	11,000	沼袋	18	16,200	3,600
下横沢	22	19,800	4,400	石神	79	71,100	15,800	子抱	21	18,900	4,200
尾呂部	64	57,600	12,800	上苗代沢	72	64,800	14,400	芦田内	34	30,600	6,800
川原木	58	52,200	11,600	下苗代沢1	69	62,100	13,800	野原	78	70,200	15,600
笈の口	21	18,900	4,200	下苗代沢2	50	45,000	10,000	雪浦	56	50,400	11,200
豊岡	37	33,300	7,400	駅前	24	21,600	4,800	橋場	134	120,600	26,800
大坊	91	81,900	18,200	犬袋	138	124,200	27,600	上町	30	27,000	6,000
岩瀬張	39	35,100	7,800	子抱団地	14	12,600	2,800	駅通	116	104,400	23,200
曲り	8	7,200	1,600	細沢	40	36,000	8,000	下町・山道	96	86,400	19,200
一本柳・白栴・ 日ノ神子	42	37,800	8,400	太田	52	46,800	10,400	境田・ニツ森	186	167,400	37,200
下屋敷・膝突・ 葉の木・上平	41	36,900	8,200	横田	92	82,800	18,400	秋浦・高梨	36	32,400	7,200
小金沢・ 大金沢	19	17,100	3,800	半在家	16	14,400	3,200	土滝・雨滝	9	8,100	1,800
相寅瀬・万部・ 落葉	44	39,600	8,800	久保・落合	58	52,200	11,600	子九十	16	14,400	3,200
大平	11	9,900	2,200	新田	45	40,500	9,000	大渡・遠中沢	25	22,500	5,000
上・下五日市	220	198,000	44,000	土川	55	49,500	11,000	太布	14	12,600	2,800
新町・城山	130	117,000	26,000	大森	25	22,500	5,000	水無	25	22,500	5,000
民部田	135	121,500	27,000	一方井	118	106,200	23,600	丸泉寺	11	9,900	2,200
柳橋	44	39,600	8,800	中田	34	30,600	6,800	穀蔵	4	3,600	800
舘	118	106,200	23,600	黒石	70	63,000	14,000				
				大股	14	12,600	2,800				
				上黒内	22	19,800	4,400				
								合 計	4,249	3,823,400	849,600

みなさまの募金が様々な地域福祉事業に役立てられています

岩手県共同募金会岩手町共同募金委員会（会長 西館政彦）では、平成26年10月1日から12月31日の赤い羽根共同募金運動月間中に、一般募金と歳末たすけあい募金を行い、町内各世帯を始め、学校、病院、職場、個人や団体等たくさんの方々から募金の協力をいただきました。

募金の総額は、一般募金が4,100,047円、歳末たすけあい募金が849,600円でした。

一般募金については、町内で活動する福祉団体やボランティアに関する事業、福祉教育に関する事業、歩行困難な高齢者や障がいのある方のための外出支援サービスや理美容サービスなど、岩手町の地域福祉事業等に役立てられます。

歳末たすけあい募金の使い道については、義援金の配分報告をご覧ください。

みなさんの善意が地域を支えています。たくさんのご協力に心から感謝いたします。

◆職域募金

(単位：円)

職場名	一般募金
岩手町役場職員一同	12,616
消防署岩手分署	2,184
岩手銀行沼宮内支店	1,347
ケアホーム川口	9,400
(有)キロサ肉畜生産センター	1,415
岩手町デイサービスセンター	5,364
(株)高橋建設	5,000
岩手缶詰(株)岩手工場	5,000

職場名	一般募金
新岩手農協岩手支所	5,099
岩手警察署	2,847
あんずの里職員一同	27,829
SWS 東日本(株)	1,085
沼宮内歯科医院	10,000
佐渡医院	4,370
佐渡医院	10,000
(有)沼宮内タクシー	3,225

職場名	一般募金
外山商店(有)	2,893
北上脳神経外科クリニック	1,167
佐藤整形外科クリニック	2,549
ジョイス沼宮内店	828
北進印刷(有)	2,643
岩手町社会福祉協議会	12,525
(株)ベルプラス沼宮内店	1,082
職域募金合計金額	130,468

◆学校募金

(単位：円)

学校名	一般募金
岩手県立沼宮内高等学校	3,049
浮島小学校	3,875
沼宮内小学校児童会	6,619
水堀小学校	7,626
久保小学校	1,951
川口小学校	1,830
川口中学校	2,953
東部中学校	11,206
岩瀬張小学校	8,300
一方井小学校	3,580
北山形小学校	6,401
沼宮内中学校	15,947
学校募金金額	73,337

◆行事等募金

(単位：円)

募金者名	一般募金
街頭募金（岩手町秋まつり）	8,897
南山形地区文化祭実行委員会	24,250
北山形地区文化祭実行委員会	32,600
行事等募金合計金額	65,747

◆その他募金

(単位：円)

募金者名	一般募金
柴田 榮子	7,030
その他募金合計金額	7,030

◆預金利息

(単位：円)

預金利息	65
------	----

◆募金合計

(単位：円)

一般募金合計額	4,100,047
歳末募金合計額	849,600
共同募金合計額	4,949,647

歳末たすけあい募金

地域歳末 たすけあい運動

地域歳末たすけあい運動は、「みんなでささえあう、あったかい地域づくり」がスローガンです。

町内の要保護世帯や在宅でねたきり等の高齢者や重度障がい者等を対象に、歳末たすけあい義援金として、歳末たすけあい募金を配分しております。

みなさまからのご協力に感謝いたします。

義援金配分の報告

配分対象及び経費	配分額
要保護世帯 132 件 要保護世帯人員 226 名	490,000 円
在宅ねたきり・認知症高齢者 16 名	80,000 円
在宅重度障がい児・者 24 名	120,000 円
せせらぎ会 26 名	26,000 円
災害被災世帯 1 件	7,000 円
配分経費	30,860 円
地域福祉事業	95,740 円
合 計	849,600 円

まちの福祉

～福祉に関する情報コーナー～

町老人クラブ リーダー研修会開催

町老人クラブ連合会（会長 西田利夫）では、平成二十七年二月二日から二日間の日程で、盛岡市つなぎ温泉愛真館を会場に「平成二十六年度若手町老人クラブリーダー研修会」を開催しました。町内の単位老人クラブ会長が参加しました。

研修では、県民生活センターより悪質商法についての講演と、ニュースポーツについて学び、有意義な研修となりました。



レストラン石神の丘で お食事会

二月の子育てサロンすくすくは、レストラン石神の丘で開催しました。町内の食材を使ったランチメニューを子どもたちも一緒に楽しみました。毎月様々な行事を行っておりますのでお気軽にご参加ください。



みずき団子づくりで 世代間交流

一方井保育所（所長 高村真木子）では、平成二十七年一月十三日に一方井友愛活動（代表 田村進）と園児の祖父母を招き、みずき団子作りの伝統伝承活動を行いました。みずきにカラフルな団子をみんなで飾り、世代間交流を通じて思いやりの心を育みました。



ご寄付いただいた方の紹介

寄付者名・寄付団体名（平成27年1月1日～2月28日受付分）

- 吉田 幸助 様…………… 切手 1,200 円分
- みちのくコカコーラボトリング株式会社
西根営業所 様…………… 2,074 円
- 岩手町農産加工組合 代表 田村 妙子 様
…………… 10,000 円

